

平成 30 年 9 月 28 日

南の風 282

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

～翔べ誰よりも高く東海空へ～のスローガンの下、8月に愛知県で行われたインターハイ女子決勝、岐阜女子 vs 桜花学園の試合の様様を書きます。

この2チームは、過去3年間続けて決勝で相見えています。両者の対戦成績は桜花学園の2勝1敗です。岐阜女子は、昨年桜花学園を61対55で下し、初優勝を飾りました。

岐阜女子はインターハイ2連覇が懸かり「去年は2冠（インターハイ、国体）」、桜花学園は昨年度無冠「インターハイ、国体（不出場）、ウインターカップ（選手権大会）」の雪辱を果たす戦いとなりました。因みに両チームは今年の東海大会（準決勝）で当たり、桜花学園が63対61で勝ちました。

出だしから#4坂本のドライブイン#8平下の3Pで、これ以上ない入りした桜花学園、一方岐阜女子は#7ダフェのゴール下ステップイン、#4池田のドライブインで流れを渡さない。その後点の取り合いとなるが、両チームの見応えのあるフットワークのため締まったゲームとなる。第1ピリオドを終わって18対18であった。

第2ピリオドに入って両者一步も譲らない。岐阜女子は#7ダフェ、#8チカンソのポストプレー、#4池田のジャンプショットやドライブインで得点する。桜花は#14アマカのジャンプショット、#8平下のミドルショットで攻める。ディフェンスでも桜花は、#4坂本のテイクチャージや#14アマカのディフェンスリバウンド、岐阜女子は#4池田の執拗なボールマンチェック、#11安江の身体を張ったディフェンスリバウンドなど見所満載であった。逆転、逆転を繰り返したこのピリオド、31対30で桜花学園のリードで終了する。

どちらが主導権を握るかで始まった、第3ピリオド。先に流れを掴んだのは桜花であった。#4坂本のドライブ、#8平下のミドルショット、#14アマカのゴール下で加点する。オンザコートでの5人の高さで上回る桜花は徐々にミスマッチを突き、点差を広げにかかる。岐阜女子はピック&ロールやドリブルロールからの攻めで活路を見い出そうとするが、フィニッシュまで持ち込めずタフショットが続く。

残り時間1分12秒、桜花#9岡本がゴール下ショットを決めると、このゲーム初めて2ケタ得点差となり、たまたま岐阜女子はタイムアウト。直後#4池田の3Pが決まり再び1桁差にするが、桜花は#8平下がすぐさま入れ返し、51対41桜花学園のリードで終了する。

第4ピリオドに入る。岐阜女子#4池田のドライブインで再び1桁差となる。しかし#11安江が4つ目のファウルで退くと、桜花は一気に攻撃をスピードアップさせる。岐阜女子はディフェンスをオールコートマンツーマンに切りかえ流れを引き戻そうとするが、桜花は落ち着いてボールをコントロールして反撃を食い止める。

その後岐阜女子は、これまで攻撃の中心（ショットやリバウンド）を担ってきた#11安江が5ファウルで退場する。それでも#4池田の3Pやドライブインショットで応戦し、ディフェンスをさらに激しくしてプレッシャーをかける。しかし桜花はチームファウルで得たフリースローを確実に決め、危なげなく逃げ切った。最終スコア、70対61で桜花学園が2年ぶり23回目の女王に返り咲いた。